

元愛防第 63 号
令和元年 8 月 9 日

各関係機関・団体長 殿

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について
病虫害発生予察注意報（第 1 号）を下記のとおり発表したの送付いたします。

令和元年度 病虫害発生予察注意報（第 1 号）

令和元年 8 月 9 日
愛 媛 県

病虫害名 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ等）

作物 水稻（普通期）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 7 月の普通期栽培における本田及び畦畔雑草の調査では、いずれも発生圃場（地点）率、掬取り虫数は多であった（表 1）。
- (2) 予察灯の誘殺数は、6 月後半から 8 月第 1 半月にかけて平年に比べて多く推移している地点がある。特に、クモヘリカメムシでは 7 月下旬以降増加しており、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメも平年より多い地点が認められる（図 1）。
- (3) 四国地方の 1 か月予報（令和元年 8 月 1 日発表）では、平均気温は高いとされていることから、斑点米カメムシ類の発生には助長的である。

4 防除上の注意

- (1) 圃場周辺の除草を徹底する。出穂直前の除草はカメムシ類を圃場内に追い込む可能性があるもので、出穂 15 日前までに行う。
- (2) 出穂期の定期防除で圃場密度を下げ、さらに乳熟期～糊熟期（出穂後 10～15 日）にも防除を実施する。特に多発圃場では、1 回目の防除から 7～10 日後に 2 回目の防除を行う。なお、ミナミアオカメムシに対しては MR. ジョーカーの効果が劣るので発生種に適した薬剤を選択する。
- (3) クモヘリカメムシやミナミアオカメムシ等は、水田内でも繁殖し、斑点米の産出能力が高いため、登熟後期まで被害が及ぶ。このため、防除の実施後も発生状況に注意する。



クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ ミナミアオカメムシ アカスジカスミカメ
写真 主な斑点米カメムシ類

表1 本田及び畦畔雑草における主要な斑点米カメムシ類の発生状況(7月)

作期	本 田				畦畔雑草			
	発生圃場率(%)		採取り虫数(20回振り)		発生地点率(%)		採取り虫数(20回振り)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
普通期栽培	17.6	8.04	0.76	0.25	81.8	52.7	21.5	10.5

1) 採取り虫数は、1地点(圃場)当たり虫数

2) 平年値は、平成21~30年の10年平均

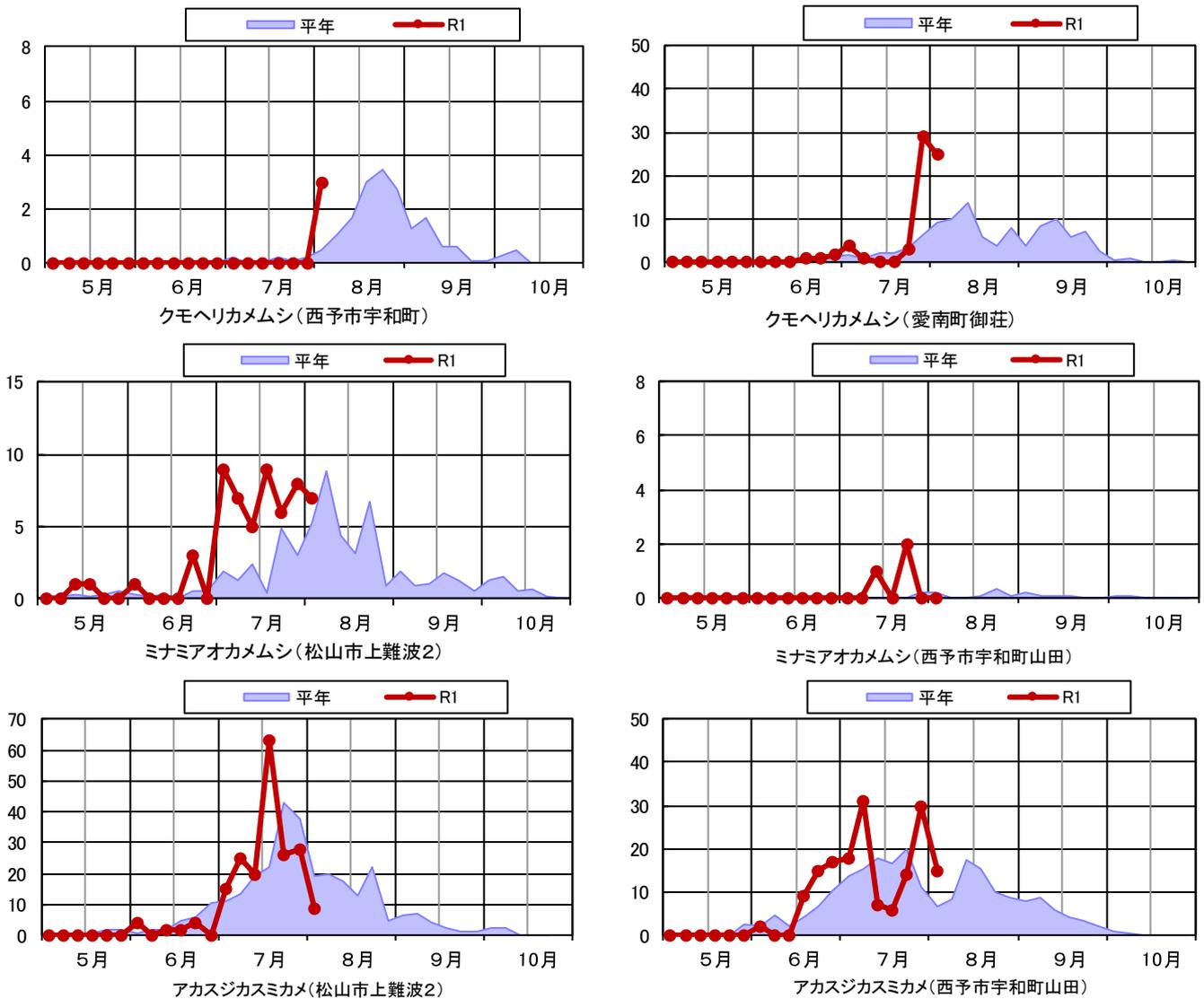


図1 クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメの予察灯への誘殺状況 (多誘殺地点、県下7地点設置)